

箕輪工業高校学園ニュース (うえのばやしだより)



3月8日(土)、好天に恵まれ、暖かな春の日差しの中、平成19年度卒業証書授与式が行われました。

卒業生は、全日制、定時制合わせて107名。本校での3年間あるいは4年間のさまざまな思い出を胸に巣立っていきました。晴れやかな表情からは、新しい生活への期待や意欲が感じられました。

また、今回の式は本校が「箕輪工業高校」の名前で挙げる、最後の卒業式です。多くの人々が「変化」についての言葉を口にしていたのが印象的でした。特に箕輪工業高校最後の卒業生や、箕輪進修高校最初の年を経験することになる在校生には特別な思いがあったようです。以下に式で読み上げられた答辞と送辞の抜粋を掲載します。



新たなスタート 卒業式

答 辞

卒業生代表 田中 卓也

この学校で過ごした三年間、あるいは四年間、思い出は人それぞれだと思いますが、充実していたという実感を多くの卒業生が持っていることと思います。私もその一人です。

来る日も来る日もシャトルを追いかけ、念願の県大会出場を果たすことができたクラブ活動や、学友会長として作り上げた箕工祭など、思い出は尽きません。

今年度の箕工祭。箕工祭という名称では最後となった文化祭。例年に比べ準備が遅れ、どこから手をつけて良いかわからないまま気持ちばかり焦ってゆく。顧問の先生からは、「こんな状態で本当にできるつもりか。やめるなら今だ。」とまで、厳しく迫られたこともあります。

箕工祭中止?! そんなことは絶対にできない!

執行部態勢を立て直し、手探りではありましたが、とにかくできるところから準備に本腰を入れ、夜遅くまでの作業や話し合いの結果、無事当日を迎えることができました。全校生徒がどこかに関わることで、よい文化祭を作り上げることができたと思います。残った課題は後輩の皆さんに手渡します。多部制単位制の導入で、学友会・生徒会の活動にも困難な点が多いことと思いますが、工夫してください。めげないでください。今年度をしのぐ文化祭を作り上げてください。楽しみにしています。

この箕輪工業高校の八十五年は、常に地域の皆さんに支えられ、地域とともに歩んできた歴史です。私を含め、今年度の卒業生の六割以上が上伊那で就職します。社会人の一員として、安心して暮らせる、豊かな地域作りに貢献したいと思っています。卒業後もご指導よろしくお願ひします。進学する卒業生たちは、より深い知識や技術を身につけ、それを社会づくりに生かしてくれることでしょう。地域の一員として、校名が変わり、課程が変わっても、母校の後輩を励ますことのできる同窓生になりたいと思います。



送 辞

在校生代表 伊藤 修

特に私たち在校生の記憶に強く残っている先輩方の姿は、箕工祭のときのものです。その箕工祭を生徒会執行部をはじめ多くの先輩方が長い時間をかけて企画し、何度もリハーサルを行い、玄関前には努力の結晶ともいえる大きなハリボテをつくり、私たち在校生に感動を与えてくださいました。

箕工祭での三日間。とても大きな期待と生徒の熱気で満ち溢れている中で始まった前夜祭。定時制の「箕輪太鼓」の迫力で熱気がさらに高まりました。一般公開が行われた二日目。さまざまなイベント、各クラス箕工祭の前から準備に励んできたクラス展示、地域の方々の作品展示も行われ、充実した一日でした。そして、箕工祭のテーマが書かれたステージバックの下に集まり、全校を感動と涙に誘った後夜祭。全校で見上げた花火。この三日間という短い期間のために、先輩方がどれだけの時間と労力を費やしてきたのか、想像もつきません。しかし、あの「有終之美」という火文字に込められた先輩方の熱い思いを、わたしたちも受け継いでいきたいと思います。



卒業生に贈る言葉（卒業式式辞より） 学校長 荒井 和人

1 「時どき初心忘るべからず」

能楽を大成した世阿弥が書いた能楽論についての書、花鏡の奥の段に記されている言葉の中に、「初心忘るべからず」の一句があります。その中に、三ヶ条の口伝があります。その一つ「時どき初心忘るべからず」について話します。この言葉は、各時期ごとの能楽の芸として学習してきたのは、その時期の初心芸である。その時々習得した芸をその場限りで忘れてしまうことなく保持することにより、能の芸域が広がり、大成するということです。皆さんも、ここ箕輪工業高校で学び身につけたことを忘れずに、更なる発展につなげてください。

2 「良識ある行動のとれる人」なる

家族の絆を大切に、高き理想を胸に、地道に努力をする人、そして、人生の節目で今のままでよいか…と冷静に自らを振り返ることのできる人であってほしいと願っています。また、自分の言動に責任を持ち、倫理観・道徳観を身につけ、善悪の判断ができ、良識ある行動のとれる人になってください。

皆さんの前途洋々たる人生に幸多かれと祈念しております。

卒業おめでとう。

20年度入試状況

後期選抜の全日程を終え、3月21日（金）に合格者を発表しました。

前期選抜の合格者を合わせ、I部普通科 68名、II部普通科 41名、III部普通科 12名、I部クリエイイト工学科 40名が箕輪進修高校の入学予定者となっております。

手作りの送別会

卒業式前日の3月7日、全日制では学友会主催の送別会が行われました。卒業生だけでなく、みんなが楽しめる会にしようと、2年生の新執行部が短い時間の中で力を合わせて準備した会です。全校でのクイズやゲーム、卒業生の3年間の振り返るビデオ上映などが行われ、終始笑顔の絶えない楽しい会になりました。



編集後記

今年度「うえのばやしだより」を担当させていただきました編集者です。一年間「うえのばやしだより」におつきあいいただき、ありがとうございました。4月からもうえのばやしだよりをよろしくお願いします。

この一年間、多部単位制へ変わりゆく学校の姿と、変わらない生徒たちの日常をお届けするつもりで、「うえのばやしだより」を作ってきました。「箕輪工業高校」最後の年の生徒たち。1年生から3年生まで、一見、いつもの年と変わらない日常を送っているように見えます。しかし彼らの身近で過ごしながら、生徒それぞれが多かれ少なかれ、変化に直面しているというプレッシャーを受けながら生活していることを感じずにはいられませんでした。それは今回掲載した卒業式の答辞・送辞にも表れています。

この4月から多部単位制高校「箕輪進修高校」がスタートします。新入生だけでなく、迎え入れる2、3年生も新しい学校に不安を抱えていることでしょう。担当部署は変わりますが、生徒たちが安心して生活し学習する当たり前の日常のために、力を尽くしていきたいと思います。

（本紙編集担当 宮坂）

続報

みのこう号が

ベトナムの子どもたちのもとへ届きました！

前号で、ボランティア同好会が箕輪町で行われたチャリティバザーに、文化祭での収益を寄付させていただいたことをお伝えしました。そのバザーの収益で購入された通学用自転車「みのこう号」が、ベトナムの子どもたちのもとへ届けられました。

「ベトナムの子どもたちに教科書を贈る」ことを企画されたのは、箕輪町の有志団体「チームそよかぜ」の皆さん。バザーの収益は、教科書や自転車などの購入費用となり、ベトナムホーチミン市のセント・ビンソン・チャリティ小学校に贈られました。

「一人ひとりの力はごくわずかだけれど、自分たちに出来ることをしたい。」ベトナムの子どもたちの笑顔を見ると、自然にそう思えます。



←自転車に貼られた「みのこう号」のステッカー

箕輪進修高校(仮称) ホームページ

<http://www.nagano-c.ed.jp/tabusei/>

20年度より始まる「多部単位制課程」についての詳細はこちらをご覧ください。

箕輪工業高校ホームページ

<http://www.nagano-c.ed.jp/minoko/>

箕輪工業高校の情報が満載。是非、一度ご覧下さい。

学校に対するご意見・ご要望は
minoko@nagano-c.ed.jpまたはTEL0265-79-2140（代表）
教頭鈴木までお願いいたします。